



昨年杉の木で自宅の内装をリフォームしたことが縁で、杉材を提供してくださった「TSウッドハウス協同組合」が毎年主催する、杉の木伐採ツアーに、1泊2日で参加してきました。夫は休日出勤でお留守番。私一人、昨年につき2度目の参加です♪

「TSウッドハウス共同組合」は徳島県の、那賀川の清流をたたえ豊かな自然に抱かれた地で、代々製材業を生業としてきた5人の林業家によって13年前に設立されたそうです。

伐採ツアーの内容は、林業試験場で杉材の強度実験を見学したり、製材所をまわり、丸太がゆっくりと時間をかけて材木になるまでの成り立ちを見学したり、そして実際山中に入り、杉の伐採の一部始終を目の当たりにしたりと、どの場面も印象に残るものでした。



お施主さんや建築家をはじめ、建築家を目指す大学生や大工の棟梁など、参加メンバーの顔ぶれもさまざま、杉をめぐる縁で繋がった人たちとの親睦もうれしい、和やかな旅となりました。



TSウッドハウス共同組合
〒779-1118
徳島県阿南市那賀川町豊香野
TEL：0884-21-2022
<http://www.ts-wood.or.jp/>



冬の那賀川は水流も穏やか。土手に川にむかって佇む小さな祠を見つけました。

かつては上流の山で伐採した杉の丸太を、いかだで下りながら下流の製材所まで運んだそうで、そこに生きる人たちはみな、命がけだったのだろうなと偲ばれます。
去年はまったく気づかなかった風景でした。

天気予報は夜から明日の未明にかけて雨模様。
すっかり冷え込んできました。
知らない土地に身をおくと心が澄んできて、目に映る風景1つひとつが新鮮です。



伐採ツアーの宿泊先は、那賀町（旧木沢村）にある「四季美谷温泉」。
前日の宿への移動中は、車窓から見える風景は真っ暗で、一体どんどころを
走っているかとわからないでいたけれど、朝起きて散歩を試みれば、
辺りは山に囲まれていて、ほとんど集落がないところだということがわかります。
深夜の雨は山頂のあたりでは、雪にかわっていたようで、うっすら白化粧。
野鳥のさえずりと青く透きとおった川のせせらぎだけが聴こえてくる山の朝。

四季美谷温泉
〒771-6116
徳島県那賀郡那賀町横谷
TEL：0884-65-2116



宿には早くも正月のしつらえが。
夜は温泉につかり、山海の恵みいっぱいの料理と酒で盛り上がりました。
宴会は明け方まで続いたようです。（タフだ・・・）

お刺身がとても美味しかったです。（これにつられて参加しているような気がします・・・）



さて、ツアーのメインイベントは、山中での杉の木の伐採見学。

杉の木がそびえる山の風景は、私の故郷の原風景でもあり特別なものではありませんでしたが、実生で100年以上もかけて、今日にいたるまでおよそ3代が受け継いで杉を育ててきたという話をうかがうと、そこに流れた果てしない時間と、たずさわってきた村の多くの人たちの志などが頭の中を交差して、静かに胸にせまってくるものがあります。それらの思いを刻むように、杉は1年にひとつだけ年輪を重ねながら、素直にまっすぐとそびえていました。

「今日は鳥も鳴いてないな～。春は野鳥がにぎやかで、夏は蝉の鳴き声がうるさいけれども。」と組合の方が話していたけれど、冬の杉林はシンとしていて、どこまでも静謐な時間が流れていました。一羽だけ、なにかの山鳥がまるで杉林の番人のように、梢から梢へと飛んでいた姿をかすかに見ることができましたが、はて、あれはなんの鳥だか。そして谷をはさんだ向こう側の山では、猿の群れがこちらの様子をうかがっているようでした。

杉を伐採していると、その光景を遠くから鹿たちがじっと見守っていることがあるそうです。木を伐採した場所には太陽がさしこみ草が茂るから、鹿たちのかっこうの餌場になることを彼らはよくわかっているのだとか。

葉枯らしといって、伐採された木は枝葉をつけた状態で、山中に横たわったまま自然乾燥されます。切られてもまだ自分は生きていると思いこんでいる木は、しばらく光合成を続けるそうで、そうやって木はゆっくりと自らの養分や水分を減らしていくのだそう。



杉を伐採している間は誰もが固唾を呑んで見守る、緊張する時間です。チェーンソーとくさびを打つ音が山から山へと響き、しだいにギギギギとにぶい音を発しながら杉が左右に揺れ始めると、果たして、ズシン！と地面に倒れて地響きのような音が木霊となって空をわたっていくのでした。目の前で倒れていった木の姿に、つかのま言葉を失い、ただただ、せつないようないとおしいような思いで見つめました。断面は触るととてもしっとりとして、すっとした爽やかな香りがたっています。手のひらから100年の歳月が体に染みていくようでした。